

「土砂災害防止のために」

石川県 志賀町立志賀中学校 3年 とくらく たかひと 徳楽 崇仁

最近、土砂災害に関するニュースを多く聞く。大抵が道路などに流れて交通問題が発生するが、運悪く民家に流れ込み、死亡事故になる場合もある。土砂災害防止のために僕たちは何を行っていけばいいのだろうか。

ニュースで聞く土砂災害のほとんどは大雨が原因で起こる。雨で地盤がゆるみ、そこから崩れて、土石流などの災害が起こるのだ。これいのはこの土石流がいつ、どのタイミングで起こるのか予想ができないことだ。例えば、地震は最近の技術の向上により、発生前に予測ができるようになった。でも、土砂災害にはそれがない。いつ、どこで起こるか分からない。それこそが規模で言えばはるかに小さい土石流で死者が出る一つの原因になっていると考える。

以前ニュースで見た、大規模な土石流が民家をおそった事故。全てを飲みこむそれは、僕の思っていたものよりも、ずっとおそろしいものだった。家屋が崩れるほど大量の土砂、そしてそこに生えていた木なども崩れ落ちて民家をおそった。その事故はテレビを通して見ても悲惨なものだった。また、運悪く亡くなった人もいた。その理由は中の人々の救助作業が難航していたからだ。いつ再び起こるか分からない土石流に対し、なかなか効率よく作業ができなかったのだ。実際、僕が見ていたときも細かい土砂はもちろん、まれに大木も崩れ落ちてきたので作業がはかどらないのも無理はないと思う。

では、どうしたら土砂災害を未然に防げるのだろうか。僕は地震のように土砂災害の発生する可能性のある地域を示したハザードマップを作ればよいと思う。土砂災害はいつ、どこで起こるか分からないから被害を受ける。もし、どちらかがわかるのなら、事故が起こる前にすばやく退避できると思う。そうすれば土砂災害によって生まれる人的被害は軽減されるだろう。

また、土石流の起こりそうな土地を整備して土砂災害自体をなくすという考え方もある。この方法の利点はハザードマップと違い、土砂災害の原因をもとから断つことができる。雨が降っても崩れない強固な地盤を築けば、土砂災害への不安はなくなるだろう。

しかし、この二つの方法には、どちらも欠点がある。ハザードマップの欠点は土砂災害自体は防ぐことができない点だ。人は逃げて、その人の住む家が崩壊している可能性もある。土地を整備すれば土砂災害が起きないが別の欠点がある。それは、時間と費用がかかり過ぎる点だ。全国に土砂災害が起こり得る場所は星の数ほど存在する。それら全てを工事するのは時間がかかり、費用も足りないのだ。

だから、僕はこの二つを同時に行えばよいと思う。ハザードマップを地域別に配り、地域の人々に防災を徹底してもらおう。観光客用にも作り、道の駅などに置いておけばいいだろう。それと同時に土地工事を行う。時間はかかっても手抜き工事などせず、ずっと土砂災害が起こらない状態にすればいいだろう。

このようにすれば、気の遠くなるような長い時間がかかるが、土砂災害を防止できる。ハザードマップを作ることで、その期間の人的被害も防ぐことができる。他にも、ニュースでの大雨情報や土砂災害注意情報にしっかり耳を傾けることも大切だ。

土砂災害、それはときに人の命をも奪う、おそろしい災害だ。でも、地震や津波に比べて、小規模で助かる可能性のある災害である。だからこし、町などの集団や個人で防災対策への関心と意識をもつことが大切だ。ハザードマップ一つでも助かる確率は大きく変化する。自分の命や家族の命を守るために、土砂災害防止のための工夫を小さなことでもすべきだろう。